

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第5回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



宗形明・陳述書（2009.3.3.東京地裁）その2 【松崎明氏の革マル性】について

1. 私は、ほぼ労働関係業務一筋で過ごした国鉄・JR人生における実体験から得た感覚として、松崎氏が革マルであること、動労内部に革マルが浸透していること、動労が松崎氏及び革マル集団に支配されていることを一度も疑ったことはありません。JR総連及び東労組についても同じで、その理由は、「1978年（昭53）、動労・貨物安定輸送宣言のころ、革マルを脱けた（と思う）」という松崎氏の公言を信じる、信じないは別にして、「動労（の）革マル系活動家1700人（といわれている）」（立花 隆「中核VS革マル」講談社文庫）が、「党から離れた」形跡が全く見あたらないからです。…1700人前後もの革マル派活動家の離脱が、人知れずひっそりと完了するなど絶対にあり得ないというのが体験に基づく私の実感なのです。
2. 松崎氏は従来、「1978年ころ、革マルを離れた」趣旨を著書や講演などで繰り返し公言してきましたが、最近は「労働運動指導者として生きていくことを選んだ。最初から革マル派とは対立した」、「最初から“松崎派”であり、“松崎組”だった」などと開き直っています（「松崎明秘録」同時代社）。しかし、これが虚言であることを立証する資料として、たとえば次のようなものがあります。
 - * 1972年（昭47）「週刊新潮」（7月8日号）の取材記事
【私は、確かに日共や社会党に対しては大いなる不満を持っていますが、しかし、革マルではありません。新左翼という言葉も嫌いです。】
 - * 福原福太郎著「記録『国鉄改革』前後 労組役員の備忘録から」
【（私は松崎氏から）国鉄改革の段階で、その革マル派を離れたと、聞いた…】
1972年の週刊新潮の取材で、松崎氏は、「（私は）革マルではありません」と断言していますが、これは動労・貨物安定輸送宣言の1978年の6年前になります。これに対し、福原氏（元JR総連委員長）が松崎氏から「革マル派を離れた」と聞いたという「国鉄改革の段階」とは、1987年（昭62）頃ですから、こちらは動労・貨物安定輸送宣言の1978年の9年後になります。
3. おそらく活動資金面を通じてのことでしょうが、松崎氏は、今や黒田寛一氏死後の「党革マル派」に対して絶大な影響力を行使していると思われます。黒田氏生存の頃でさえ、党革マル派は、JR総連や東労組の幹部に対しては、「坂入充は古参党员」などと、秘密暴露や名指しで非難するなどしていましたが、松崎氏についてだけは一切批判せず、著書や講演内容などを高く評価するのみでした。そして、「革マル派による東労組OB坂入充拉致監禁」事件をめぐる紛争の最中においてすら、“文書改竄”を行ってまで機関紙「解放」で松崎擁護に走るなど、特別な崇敬姿勢を見せるなどしてました。